

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	実験実習	
科目基礎情報							
科目番号	1942110			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	商船学科 (航海コース)			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	救命講習については「救命講習用教本」(海技教育財団、海技大学校編)を使用する。						
担当教員	岸 拓真,河村 義顕,荻上 敦弘,片倉 広暁,清田 耕司						
到達目標							
(1) 実習内容を理解し、講義で学んだ知識を活用し遂行することができる。 (2) 専門科目の概要および基礎知識・技術を習得することができる。 (3) 実習内容についてまとめ、報告書(レポート)の作成ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		実習内容を理解し、講義で学んだ知識を十分に活用し遂行できる。	実習内容を理解し、講義で学んだ知識を活用し遂行できる。		実習内容を理解し、講義で学んだ知識を活用できない。		
評価項目2		専門科目の概要および基礎知識・技術を十分に理解し習得する。	専門科目の概要および基礎知識・技術を習得する。		専門科目の概要および基礎知識・技術を習得できない。		
評価項目3		実習内容を十分に理解し内容をまとめ、報告書を作成することができる。	実習内容を理解し内容をまとめ、報告書を作成することができる。		実習内容を理解し内容をまとめ、報告書を作成することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本実験実習を通して、船舶職員として必要な知識・技能を身につけ、運用・応用ができるようになる。						
授業の進め方・方法	(1) 実習は3班体制で実施する。別途予定表及び班編成表を配布するので、内容を確認の上受講のこと。 (2) 実習は各実習設備、練習船広島丸を利用して実習形式で実施する。また必要に応じて資料(自作プリントなど)を配布する。 (3) 危険が伴う作業を行う際は、安全に十分留意し指導員の指示に従い行うこと。 (4) 実験実習は、試験の代わりにレポート及び実習成果物が評価対象となり再試験に類するものはない。						
注意点	(1) 今後学ぶ専門技術の基礎となる科目であるから、実習内容をしっかりと習得する必要がある。 (2) 実習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。各自メモをとるなどして主体的に学習すること。 (3) 所定の作業服、作業帽、安全靴を着用し、時間厳守で所定の場所に集合し整列しておくこと。 (4) 評価方法の「その他」では、授業態度及び積極性を評価する。 (5) 実験実習は必ず出席すること。やむを得ない事情での欠席以外、基本的に補講は実施しない。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		・ 機器の安全操作に対する正しい知識を持ち、説明できる。 ・ 安全上定められた方法や規則を理解し、厳守できる		
		2週	船体運動		・ 船舶の旋回試験を行い、解析することができる		
		3週			・ 船舶の旋回試験を行い、解析することができる		
		4週			・ 船舶の操縦性試験を行い、解析することができる。		
		5週			・ 船舶の操縦性試験を行い、解析することができる。		
		6週	航海英語		・ 操船時の指示及び応答を英語で行うことができる。		
		7週			・ 操船時の指示及び応答を英語で行うことができる。		
		8週			・ 投錨作業の指示及び応答を英語で行うことができる		
	2ndQ	9週			・ 投錨作業の指示及び応答を英語で行うことができる		
		10週	レーダ・シミュレータ		・ レーダ・シミュレータを操作し、相手船の情報を解析することができる		
		11週			・ レーダ・シミュレータを操作し、相手船の情報を解析することができる		
		12週			・ 解析した情報をもとに、相手船を避航することができる		
		13週			・ 解析した情報をもとに、相手船を避航することができる		
		14週	救命講習		・ 船舶遭難時の救命に関する国際条約について説明できる。 ・ 船舶遭難時の生存維持の条件について説明できる		
		15週			・ 船舶に備え付けられている救命設備について説明でき、使用方法を理解している。 ・ 非常事態を想定した船外への離脱訓練を経験している。 ・ 心肺蘇生法について説明でき、自分で実施できる。		
		16週	まとめ				
評価割合							
	試験	レポート・課題	相互評価	成果品・実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	70	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	0	30	0	70	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0